

## 2012 年度春合宿報告書

日時：2013 年 3 月 11 日～13 日

山城：大山（鳥取県）

参加者：青木（2 年）、中山（2 年）、中本（1 年）、富家（1 年）

### 行動記録

3/11（博多～米子） 文責：富家

06:15 博多駅

08:25 西小倉

08:45 門司

08:54 下関

12:25 長門市

13:36 東萩

15:05 益田

16:01 浜田

19:44 米子

3/11 朝 6 時 15 分ぐらいに博多駅の北口に集合した。遅刻者はおらず、それぞれ余裕を持っての一日の始まりだった。

集合してから、出発までの小一時間ほどをその日の行動を確認等したり、談笑したりして過ごした。ここで、中山先輩は改札口近くのコンビニで朝ごはんとなる駅弁を購入していた。そろそろ時間かという 20 分前ぐらいに駅構内に入った。西小倉までの車内で早速中山先輩は朝ごはんを食べ始めていた。青木先輩と、中本は早朝ということもあってかうたたねしていた。二人が寝たため、西小倉まで中山先輩に付き合ってもらって寝ることはなかった。門司での乗り換えは比較的スムーズだった。下関では次に出る時間まで一時間ほど空きがあったため、街に繰り出して周辺をすこしぶらついた。青木先輩が無性に見たがった下関海峡タワー目指してだべりながら歩いた。そこが下関での確定申告の会場だったため、先輩お二方からちょっとしたアドバイスを頂いた。長門市では某アニメの 1 ヒロインの名前と一緒に盛り上がり周りの客に若干引かれていた。自制しなければ…。周りのお店も特になかったため、駅の

コンビニでそろって弁当を購入した。値段は大学でもあるものと同じだった。電車内で弁当を食べ終わった後、竹下先輩が寄贈されたトランプで延々と大富豪をやってかなり盛り上がった。益田までの間はまだよく耐えていたが、浜田米子間3時間のラスボスでは青木先輩が疲労の為かちよっとおかしくなっていた。長い電車内を退屈せずにいかに楽しく過ごすかは永遠の命題のようにも思えた。

米子に到着した後、すぐ泊まるホテルに荷物を置きに行った。そこの管理をされている方に夕食のおすすめをお聞きして焼肉屋さんに向かった。可もなく不可もなく値段通りの味だった。帰りにイオンに寄り、つまみやチューハイ等を買って夜寝る前にちょっとした宴会を行った。部屋は狭いながらもベッドだったのでほかの方も一応眠れたと思いたい。11日の行動は以上です。

3/12(米子駅～弥山～元谷テン場) 文責：青木

09:55 大山寺バス停

10:05 大山寺

10:55 元谷避難小屋テン場

11:05 荷物をデポし、山頂へ

12:15 6合目避難小屋

12:55 標高1600m

13:20 弥山山頂

14:00 6合目避難小屋

14:10 標高1200m

15:10 元谷避難小屋テン場

3月11日に博多から出発し、その日に米子駅に着く。米子周辺のビジネスホテルで一泊し、12日に大山を目指す。

12日早朝、ホテルを出発。今日の晩ご飯のキムチ鍋の材料と朝ご飯を買いに駅近くのイオンに入店。その後、電車とバスを乗り継ぎ、大山の麓に到着。有名な山だけに、麓には旅館や郵便局などさまざまな施設がある。どことなく英彦山の麓の街に風景が似ている。綺麗な坂道をのぼると大山寺についた。隣の鳥居をくぐり、元谷を目指す。

ここからは、自然石でつくられた道が続く。日本一長い自然石で作られた道

らしい。雪が溶けて濡れていたなので、少し歩きにくい。10分ほど歩くと、大川寺神社についた。登山道にはいる。

川の左手のなだらかな登山道を歩く。雪が溶けており、夏の登山道が見えている所もちらほら。

元谷避難小屋についたが、かなり時間がある。明日の天気が悪いことから、今日中に頂上を目指すことに。いらぬ荷物をスノーフライにくるみ、デポ。

とりあえず6合目避難小屋を目指して歩こうと思ったが、行者コースの取り付きが分からない。行者谷を登れば、たどり着けるはずと考え、谷をつめることに。踏み後もいくつかあるようだ。富家は運動不足なのか、遅れ気味だった。少し歩き、休憩しているとスキーで山を下っていくおじさんがいた。他の登山客から聞いた話だとここ大山はスキーで山を下る人が結構多いようだ。近くにスキー場がせっかくあるのになぜ？ゲレンデスキーにないおもしろさがあるのだろうか。

6合目避難小屋につき、休憩。ここからはしっかり踏み固められた登山道に行く。森林限界もこえ、かなり風が強い。ニット帽と手袋を装着し、いざ山頂へ。標高1600mをこえたあたりから木道になる。しかし、アイゼンだと歩きにくいので、雪の上を歩いた。みんな木道を通っているのか、木道はアイゼンで踏まれてぼろぼろになっていた。そして、なんなく山頂へ。天気がよかったので、縦走路と剣ヶ峰がはっきりと見えた。その後、下山。下山時は夏山登山道を通り、行者コースを歩いた。

元谷につき、晩ご飯を食べ、眠りについた。しかし、風がかなり強い。テントが時折浮き、天井が顔の前まで下りてきた。ポールもキシキシいっている。テントを押さえたりしていたので、ゆっくり寝ることはできなかった。

3/13(元谷テン場～博多) 文責：富家

7:00 起床

8:15 元谷避難小屋出発

9:00 とやま旅館

10:20 大山寺

11:26 大山口

16:40 米子

21:24 益田

21:52 下関

23:09 博多

3・13は朝から風が強かった。一日で帰るために、朝7時に起床した。テントを片づける際に風が強すぎたせいでフライシートやら何やらが吹き飛ばされそうになって結構大変だった。実際青木先輩は自分の寝袋マットが2回ほど風に飛ばされていた。私は気温の変化はよく感じられなかったが、前日より雪が融けていた。下山はあっという間だった。9時ごろには大山寺の山道付近まで降りてきていたところに、ある旅館の前で帰り支度をしていた団体の前を通った。時間もあつたのでそこでお風呂に入ることに。蛇足だが、そこは以前に鶴塚の家族にばんざいだったかで取材されていた宿だった。九大のスキー部はもう20年近くごひいきなのだとか。バスは問題なかった。大山口で着いたところで、強風のため電車が遅れていることを知った。その日に帰れないことも覚悟したが、予定の時間の乗り継ぎにぎりぎり間に合う時間に電車が到着したため事なきをえた。米子で弁当を買ったり、各々昼食をとった。益田から下関にかけては、あり余る時間を大富豪で楽しんで過ごした。中本のローカルルール導入には結構苦しめられたりしたw。下関を過ぎたどこの駅だったか、快速に乗り換える為に降りた駅では、ちょっとしたハプニングから青木先輩からアイスをおごってもらった。寒かったが、そこがおつなところでかなり美味しかった。久々の31アイスに懐かしさを感じた。箱崎組3人衆は、途中の吉塚駅で下車した。青木先輩はそのまま博多まで。私たちは噂のホモ公園を横目に、馬出病院前まで歩いた。そこで解散し、この合宿も終わりを迎えた。

## 係反省

### 食料（中山）

今回初めて食料係をしたが、一番力を入れたのはエッセンである。これまでのクッキー中心のエッセンでは、口の中が乾いて水が多く必要であるという意見から、どら焼き、大福、ようかん、ブロックチーズ といったしっとりとしていて飲み込みやすいものを選んだ。実際の山行で使われることがなかったのが残念であるが、かなりの自信作である。下山後に少し食べてみたが、水なしで楽に食べることができる。次回のエッセンの参考にしてもらいたい。食事に関

しては、普段とあまり変化はない。次回も、朝の棒ラーメンに代わるメニューをと願う。

#### 医療（中本）

私にとっては初の医療係であった。持っていくものは気候が冬山と似ていることから、冬合宿と同じものを持って行き、特に変更はなかった。12日の夜に、中山と中本が頭痛を訴えたため中本はバファリンを服用した。翌朝になると二人とも回復していた。大方の推測としては、気圧の変化による軽い高山病だろうということであった。大きな怪我や病気がなくて良かった。

#### 気象（中本）

悪天候が予想されたため、13日にアタックする予定を繰り上げて12日にアタックをかけた。結果としてはこれが正しい判断であった。12日の夜から前室の鍋が吹き飛ばされるほどの強風が出始め、翌朝はさらに風が強くなり、予定通りの行動を取っていればしばらくは沈殿せざるを得ない天気であった。今回は、入山前にネットで天気予報を見ることができたため、上記のような行動をとることができたが、長期合宿となると山小屋で天気を聞くか、気象係が天気図を書いて予報をすることしかできず正しい情報を得られるとは限らない。今後とも正しい天気図を書き予報がしっかりできるよう部員全員で練習する必要があるなとしみじみ感じた。

#### 交通（富家）

交通案を出す段階でかなり手抜きで作ってしまっていたこと。今から思い返してみると、プロットというにも雑な内容でした。それぞれのルートを分かりやすく見比べられるように努力をするべきでした。また、電車の待ち時間にどこで時間をつぶせるかなどのことを少し調べていれば、また少し違っていたものになっていただろうと思いました。

#### 反省と感想

青木

今回は初めての2年生だけの合宿となった。比較的簡単な山だったのでうまくはいったが、もし山頂までいけなかったらどうしようと不安もあった。しかし、

山行記録等をたくさん読んでいたので、行者コースを見つけられなかったときに機転を利かせることができた。また、12日のうちにアタックをするという判断もうまくいき、良かったように思う。次の春合宿は段階をあげて、北アルプスに挑戦しようと思う。来年度からは新体制となるので、同学年の中山とともに山岳部を引っ張っていきたい。

#### 中山

2年生以下の山行としては初めての雪山であった。今回の山行は計画段階で予測していたよりもかなり簡単なものであったため、目立ったリーダーシップの発揮などはなく、故に上級生としてのスキル向上度も少なめであるように思う。また、弥山～剣ヶ峰は進むことはなかったが、事前に深い調査をしておけばよかったと思う。ザイルを実際の山行で出したことのあるメンバーがないことは我々の活動範囲を狭めるように感じた。アグレッシブな山行で技術を貪欲に吸収していく必要がある。

#### 富家

今回初めて合宿と名のつくものに参加をしました。そのせいか、装備等に不備があり、次回参加するに当たり改善しなければいけないところが見えたことはそれなりの収穫でした。

事前の走り込みを怠っていたために、他の方々に（特に終盤付き合っていた中山先輩に…）迷惑をかけてしまったこと。天候が変わりやすく、一刻も早く山頂に着くことが望ましい季節で、こうして足を引っ張ってしまった。普段から定期的に体力をつける努力をしなければいけませんでした。

#### 中本

春山ということで、まだまだ雪も残っていて寒いのだろうなと思い防寒着をたくさん持って行ったが、いい意味で期待を裏切られた。稜線に出るまでは、薄着でも快適に過ごすことができたし、夜もフットウォーマーをはき、背中にカイロを貼って寝たが暑さで目が覚め脱ぎ捨てたほどであった。これも晴れてて気候に恵まれたせいであっただろうが・・・雪もそれほど積もっていなかったため比較的楽に歩くことができた。ラッセルの練習ができると意気込んでいたがこれは残念な結果となってしまった。しかしながら12日夜からの風の強さ

には驚いた。時折テントを倒すかのような強風が吹き荒れ、朝になると前室の鍋が吹き飛んでしまうほどで（無事に発見できたが・・・）少なからず恐怖を覚えた。結果としては2年生以下のメンバーで目的を達成できてよかったと思う。今後も全員でレベルアップをはかり、もっと難易度の高い山に挑戦できればと思う。